

(1978.11.15「学内通信」10期7号(No.171)より転載)

広島大学医学部医学資料館について

医学部 藤田尚男

広島大学医学部医学資料館は昭和53年(1978年)11月2日に、国立大学医学部最初の資料館として医学部構内に開設されました。われわれが欧米の大学の医学部を訪れるたびに思いますことは、長い間に人類が生み出して来た、学問や文化の背景のもとに現在の医学があるということを自覚させるべき施設がよくいきとどいているということでもあります。医学の教育や研究はこのような史的基盤を、そしてそこから起る医の倫理を、自覚した上で行われねばならないと確信いたします。本資料館は、このような目的のために計画されたものであります。

本学医学部は昭和32年9月に呉市よりこの霞町の地に移転し、その後、約20年にわたり明治時代に建てられました赤レンガの兵器廠の跡を校舎として用いて参りましたが、数年前より、その大部分が、近代的な建物にとってかわるに至り、由緒深い赤レンガをそのまま残したいとの声が澎湃として起りました。赤レンガの建物をそのまま使用し、その中に資料館が誕生したのはこのためであります。

ここに、世界、日本、広島、広島大学の医学の歴史を示す種々の資料を蒐集、展示し、医師、医学研究者のみならず、一般の利用に供し、医学の発展に関する認識をたかめ、その教育や研究に資したいと念願致している次第であります。